

ヤスクニ・レポ 257 オリンピック遂行に垣間見えるもの 国会答弁の欺瞞

荻野 廣己(日本同盟基督教団馬込沢キリスト教会員)

1

「安心安全」が前提の 2020TOKYO オリンピックは閉幕した。際限なきコロナ感染を撲滅しようしているこの時期にオリンピック開催はさらに延期や中止だと言う意見が多い中での実施であったが意外にもメダルが多く取れたので「ま、よかったな」との感じが漂っているところであろうか。私も仕事や多種雑用が折り重なっているがテレビの前をうろうろして時に見入っていた。男子体操には緊張し、女子バスケットの素早いパス捌きや3ポイントシュートには感嘆した。スポーツ観戦は快感である。ことにオリンピックが異なる国民や民族への偏見を拭い去ってきたことは確かである。金メダルなど多くとって国威発揚の具とされてきた歴史も事実ではあるが、相手があればこそ実力以上の美技が発露すると彼を讃えて友好も生じる。まさに平和の祭典である。

一方でこの度のオリンピックは大義がなかった。復興オリンピックと銘打ちながらこれを示すものはなかった。もともと、誘致の目玉として掲げられたものだからオリンピックの準備期間に並行して復興に国を挙げての勢力を注ぎ込むことがなかった。予期せぬコロナのために計画したイベントは縮小し、ソフトボール、野球、サッカーは無観客にしたので集客もなく、海外からの観客に「これだけ復興しましたよ」とアピールする機会がなかったという面はあるものの見せるべき「復興」がなかった。汚染土壌をフレコンバックという黒い袋に入れて至るところに野積みとなっていてまだこれを受け入れ決定する地方自治体はなく、これを見えやすいところの置き場は仮囲い用の鋼板で目隠しをした模様である。

2

菅義偉首相は汚染水を貯水タンクに貯める場所がなくなったので2年後に海洋放出を開始することを決定した。そしてALPS(多核種除去設備)に拠る二次処理水は安全であるという。漁業は福島県の大きな産業であるが、政府はこれも無視した。復興の証にはなっていないのは明らかだ。元農林水産副大臣の

山本拓氏は反対している。自民党の総合エネルギー戦略調査会にさえ報告はなかったという。2015年経済産業省は処理水について「関係者の理解を得ながら対策を行い、海洋への安易な放出は行わない」と約束しており、全漁連は反対しているのにこの決定は合意破りであると。文科省は小学生向けに「放射線副読本」が手渡したそうで、その欺瞞ぶりをヤスクニ通信 No256(2021/7/16)に「つどい」の仲間小川正明氏が指摘している。お孫さんが貰ったと。また、経産省のホームページに載っている小委員会報告書によれば、『ALPS 処理水』の7割には2019年12月31日時点でまだ放出基準を超える放射性物質が含まれているという。100年ないし200年も経てばトリチウムも人体に影響しないヘリウムに転換するが、事故後14~5年ぐらいでなんとかなるものではないのに、このような読本を小学生や、忙しい父兄に配り付け安全をすり込んでしまう。オリンピックを意識したことも後押ししたのだろう。

3

前首相安倍氏から菅首相が受け継いだ一つは「丁寧に説明します」の決まり文句だ。そのくせ菅氏の場合は言葉短く、何度もおうむ返しにしても一向に平気であって、胃腸壁を傷めることも無いようだ。コロナが治らない状況下オリンピック開催については国民の半数以上が延期、反対だった。国会審議で共産党委員長の志位氏が訪ねた。この危険な状況下国民の多くが反対しているのになお開催しようとする理由はなんですかと聞いた。菅総理はまともに答えないで「安全に実施するのが私の役目だ」と答え、それは質問に答えていないと再答弁を求めたが同じ回答であった。

まともに答えないのは着任早々日本学術会議の第25期新規会員候補(105人)のうち6人を任命しなかったことに始まる。理由は依然と不明のままだ。野党議員が聞いても、日本学術会議が「要望書」を出しても全く説明しないばかりか、「会議」の方を改革して新たな組織にして出発させようと自民党は提言を

固める。学術会議の独立性、自立性を奪い、変質させ政府の施策に従属させる狙いを持つ。

4

以上を例にして、国会は弁論の府であるはずが真面目な審議をしないことを危惧する。憲法を脅かすような重要課題になるほど国会は審議を避け、首相は答えない。米国が国連を無視し一方的に始めたアフガニスタン侵攻を背景にした安保法制可決においても、日本自衛隊が国外に出兵し火器を使用するのは海外の日本人家族を脱出させるためだと、当時の安倍首相がおうむ返しにしていた。国会に参考人として招いた憲法学者は口を揃えて、米軍等との集団的自衛権行使は憲法違反であると断じた。国会は無視して数の力で押し切った。2015年9月19日午前2時18分に可決。故西川重則氏が祈祷会から傍聴に帰ってきて目撃したが、彼の強調する「戦争は国会から始まる」との警告はこの深夜の事態そのものであった。それから6年弱、この原稿を書いている16日の夕「アフガニスタン崩壊」とNHKは伝えた。ガニ大統領はこの日国外に逃亡した。多くの国民もタリバンの報復を恐れて空港に集まるなど混乱している。武力介入によっては20年費やしても他国の紛争を

解決できないことを証明した。

5

さて、「つどい」の仲間である山川暁氏が亡くなった。東京告白教会2021年の長老認職式の「自己紹介の辞」を読んだ。1941年生れ、私に5年早い。50歳前に洗礼を受けそのまま体勢が整っていない教会の運営に関わって絶えず苦勞して来たと知る。苦勞は我ら役員の普通ではあるが、彼は苦勞に苦勞の連続であったようだ。神学校で学び信徒伝道者としても働いた。そもそも文筆家であり学びが深く、思考が鋭く、新参者の私は「つどい」の月一の定例会で空いている隣の席に座って、えぐるようなご意見に快感を覚えた。世界情勢は不安定だ。中国の戦狼外交、台湾、尖閣列島など問題は高まり武力しか解決がない有様に見える。そこに憲法を蔑ろにして、首相が答えられないような論理が欠落した国家の歩みに不安を覚えるだけに、山川氏の意見をもっと聞きたかった。かつては2,000m、今でもなんとか1,000mが泳げる元気がありながら思いのほか死は早くやって来た。誰しも使命半ばで手を離さざるを得ない。私の「つどい」デビューは遅かったが少しは真似事でもその役割を継いで行きたい。

2021年7月16日例会奨励「いのちは恩寵のうちにある」 詩篇30篇 須田毅牧師(日本福音キリスト教会連合西堀キリスト福音教会)

① いのちを保つ主

病気について、詩人ダビデは単に肉体的な面だけを見ているのではなく、たましいの問題としてとらえています(3)。病や苦しみを神との関係で捉え、その苦しみや痛みの経験を、神に呼び求める機会として見えています。

「御怒りはつかの間」とあります(5)。神の御怒りは罪に対して向けられるものですが、そのような苦しみや痛みの経験は限られた期間です。そしていのちこそは恩寵のうちにあるのだというのです。それは神がわたくしたちに与えてくださった契約に基づきます。4節で「敬虔な者たち」と呼びかけられています。この「敬虔な者」ということばは、旧約聖書の中で神の愛を示すことばのひとつ「ヘセド」ということばと近いものです。受け入れられないような者が神の与えてくださる契約のゆえに受け入れられるように、その契約を神は破ることはないように、神の民を愛して下さっている。その契約のゆえに、苦しみの中で滅ぼすことを神はなさいません。

② 契約の恵みを受ける者

恵みのいのちをいただく者は、ある意味、貪欲

であるようにも思います(9)。生きたい、生きつづけたい、というような思いがあることを感じます。ここで「生きたい」という熱意を生み出しているのは、主の恵みを覚え、主のために生きる目的がある、ということがその内部にあるからです。

主にある永遠のいのちの恵みを思うとき、人にある死という問題も意識させられます。死を前にして、恐怖や痛みや苦しみを前にして、信仰さえもどうにかなってしまう不安は、どんなに立派な信仰者でも、地上にある限り罪と戦う人間ならば誰でも持つものであるでしょう。「いのちは恩寵のうちにある」とあるように、いのちは神のめぐみによってあるのであり、恵みによって与えられた信仰によってあるのです。

この一年あまり、「集い」の交わりにおられた先達が続いて、地上の生涯を終えられました。先達の皆さんは、地上でぎりぎりまで日本宣教の課題と格闘しておられ、そして精いっぱい力を尽くされて、主の御許へ召されたように感じます。先達は、天に導き入れられるまで、主の恵みの中にある確信によって、地上の生涯のぎりぎりの最後まで力を尽くされたのだらうと、思い巡らしています。